

# 「まごころ通信」

事務局 (書記) 新井国彦  
〒370-0042 高崎市貝沢町 4 4 7  
TEL 027-361-9731

第 82 回「まごころ塾」は、11 月 19 日 (水) 午後 7 時～高崎市東部公民館 1 F 学習室で行いました。

今回は、おいしい和菓子で有名な<sup>みしょうあん</sup>微笑庵店主の宮澤啓さんのお話でした。「お菓子作りに生きる」を題に、ライブ形式で和菓子を作りながらお話をいただきました。参加者 22 名は興味津々の眼差しで、楽しい学びとなりました。さらに作りたての和菓子を持ち帰れるというプレゼントまでつき、大満足でした。

## 日本を代表する和菓子職人になろうぜ！

・・・微笑庵で働く若者への言葉 宮澤 啓



▲超人気の「ちごもち」をあし  
らったパンフ。今年は、  
12/15(月)から販売とか。

### 「まごころ塾」のためのパンフ

「できる人」も「できた人」も時間が早い。7 時から  
の講演なので 30 分前には、と思い会場に着くと、  
すでに宮澤さんがいました。

「今日は、本当にありがとうございます。お菓子も作  
ってくださるようで、参加者も喜ぶでしょう。」

「先生方、おいそがしい時期みたいですね。娘が中一  
で、期末テストがすぐだとか言ってました。お集まり  
の方が何人でも、一生懸命話させていただきます。」

「このパンフいいですね！」

「今日の題をいただきましたので、作ってみました。」

「ええっ！ 『まごころ塾』のためにい～！ それは  
本当にありがとうございます。」

### 出会い・・・この人についてゆく

上記パンフの中身は、プロフィールに始まり、9 歳「挫折」、20 歳「格闘」、22 歳「決断」、25 歳「修業」、30 歳「低迷」、42 歳「初感」と、人生を節目でたどった軌跡が記してあります。

お話は、節目に沿って進みますが、それに伴いお菓子も少しずつ作られていきます。

宮澤さんは、小 3 で今の家 (菓子店：宮澤さんは 3 代目となる) に養子となります。転向した学校になじめず、友達は犬だけだったそうで、いじめられるので強くなりたくて空手を習い、早くに



▲作り始めました。

黒帯まで届いたと言います。初めてできた友達は、今もお店の経営を見てもらっているのだそうです。

22歳まで和菓子に興味もなく、スイスでスキーに熱中したり海外で活躍するツアーガイドに憧れたりもしたようです。でも、いつしか父の背中に習い、和菓子の道を歩むことを決断。学び始めは、有名な和菓子店を50件ほど巡ることでした。

その味と人柄にほれ込んだ佐々木勝氏の所での修業。過酷でも、和菓子でいちばん大切なものを学んだのでした。その後、自店に戻るも、商売は低迷。悩み苦しむ中で救世主は奥さん。

「おいしいはずなのに・・・と言っているでも知らなければ売れないでしょう。コンテストでもなんでも出してみたらどう？」

その言葉に押されて群馬県の物産ブランドコンテストに出て、大木紀元先生に出会い、大きく導かれました。



▲楽しそうに作る和菓子4種。

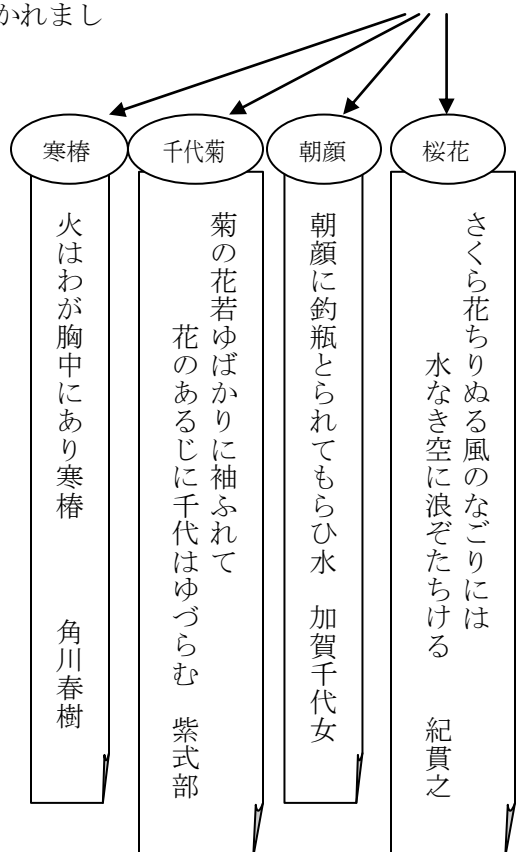
## 和菓子を通して日本を愛す

お店で働く若い人に、本当の職人を目指すことや「志」を掲げて一緒にやっていくこと伝え、本を読むことも大事にし、「和菓子の本棚」というレビューもともに書くようにしているそうです。

和菓子を通して日本を愛する心を伝えたい、そんな思いを語っていただきました。



▲完成品を食べたそうに見入る塾生たち



お知らせ

## 第83回「まごころ塾」

・・・詳細は別途案内

日時：平成27年1月17日（土）午後3時～ 東部公民館1F学習室

講師：家竹隆之さん（元ソフトボール全日本選手：高知商業高校時に初夏甲子園連覇選手）。塾生の大木正さんのチームメイトです。